

二次災害を防ぎ、ライフラインを確保しよう

火災は、地震の二次災害として最も恐ろしい災害です。いつも風呂に水を溜めておく習慣は、消火の備えにもなります。火が小さいうちは、自分で消し止めることができるよう、日ごろからバケツや消火器を常備し、初期消火訓練をしておきましょう。



地震の際は大きな揺れがおさまってから、身の安全を確保しつつ、落ちていてガスの火元を消すこと。続いて、使用中の電気器具のコンセントもすべて抜いてください。また避難する時には、分電盤の主ブレーカーを切つてから家を出ることも大切な心得です。ブレーカーを切っておかないと、通電が再開された時に、破損した屋内配線や電気製品から出火する恐れがあるからです。事実、阪神淡路大震災では、こうした原因による地震後火災が多く発生し、さらに被害を拡大してしまいました。

「今どんな状況なのか」といった情報の入手が必要となりますが、停電によってテレビや電話が使えないため、最も有効なのが乾電池で使用できるラジオです。続いて、大量の電力を必要とする場合には発電機が必要です。各家庭に小型の発電機があれば非常に役立つでしょう。

そして、大地震が起きると、停電が起きます。停電に備えて懐中電灯、ラジオ、発電機などを常備しておきましょう。停電状態では、夜間は暗闇となり、これが人々の不安を増大させます。この時に懐中電灯があれば明かりが灯り、被災者にわずかながらも安心感を与えてくれます。また、災害時には「今どんな状況なのか」といった情報の入手が必要となりますが、停電によってテレビや電話が使えないため、最も有効なのが乾電池で使用できるラジオです。続いて、大量の電力を必要とする場合には発電機が必要です。各家庭に小型の発電機があれば非常に役立つでしょう。

さらに、非常食を備蓄しておきましょう。市でもアルファ米の備蓄を行っています。大震災直後の混乱時にはスムーズに配食できるとは限りません。このため各家庭においてはクラッカー、無洗米、缶詰、レトルト食品などを備えておきましょう。

食事の際にあると便利なのがカセットコンロとサランラップです。ガスや電気が使えないため、ガスボンベとカセットコンロがあれば手軽に温かい料理をつくることができます。また、水道水が使えないため、料理皿にサランラップを掛けて盛り付けをし、食事後はラップを捨てるだけで皿を洗わずに済むので便利です。

大地震が起きてから3日間は行政などの機関が十分に機能しないことが予想されます。この3日間を「自分たちの身を自分たちで守り」ながら凌ぐことが大事です。

富士・東部保健福祉事務所(富士・東部保健所)

特定不妊治療費助成事業の変更

県では、これまで助成対象期間を通算2年間としていましたが、18年度から通算5年間に変更しました。

これまで2年間の助成を受けている方で、18年度も引き続き治療を受けている方については、新たに対象となります。申請手続きなどの詳細については、お問い合わせください。

【対象者】

○夫婦のどちらかが山梨県に住所を有している

○法律上の婚姻をしており、特定不妊治療以外の治療法によっては妊娠の見込みがないか又は極めて少ないと医師に診断された夫婦

○夫婦の所得合計額が650万円未満

【対象となる治療】

○体外受精又は顕微授精

○山梨県が指定した医療機関において受けた治療

【助成額等】

○1年度あたり10万円を限度

○通算5年

○治療終了日の属する各年度内に申請問合先

健康支援課

0555(24)9034

高齢者への虐待をなくすために

全ての虐待は、憎むべき行為です。虐待は、人の尊厳を傷つけ、ついには生命をも脅かしかねないものだからです。高齢者の安心で尊厳ある暮らしを守るために、虐待を防止することは、とても重要です。

高齢者を虐待する者は、その介護者であることが少なくありません。過重な介護負担や、高齢者と介護者だけの閉塞した関係に追いつめられることが一因となっています。介護で心身ともに疲労してしまわぬよう、周囲の者が心配りし、支援していくことが、虐待の発生や深刻化の回避につながります。このような地域づくりが、虐待の防止には必要なのです。

高齢者への虐待は、身体に対するものだけでなく、暴言や嫌がらせなどの心理的なもの、性的な辱め、世話や介護をせずに放っておくことなどがあります。年金を取り上げたり、無断で土地を売ったりすることも虐待です。

虐待に気付いたり、どうしたらいいかわからなかったりしたときは一人で抱え込まず、市町村地域包括支援センターなどの専門機関へ相談しましょう。